

平成21年度資源評価票(ダイジェスト版)

標準和名 ペニズワイガニ

学名 *Chionoecetes japonicus*

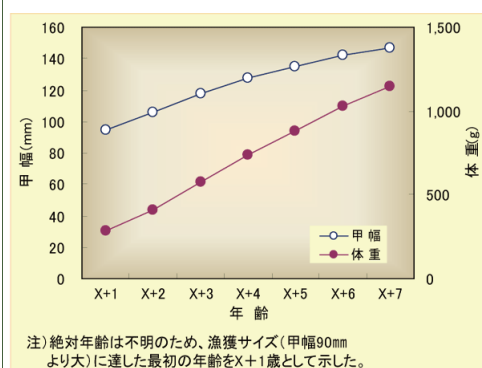
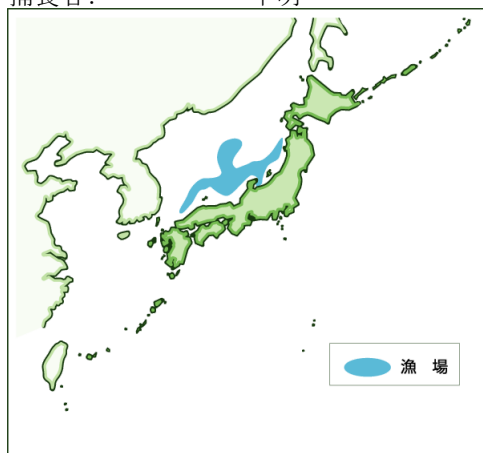
系群名 日本海系群

担当水研 日本海区水産研究所



生物学的特性

寿命: 10年以上
成熟開始年齢: 不明
産卵期・産卵場: 主産卵期は2～4月、隔年産卵で抱卵期間は約2年
索餌期・索餌場: 主分布域と同海域
食性: ヤドカリ、カニ(共食い含む)などの甲殻類、微小貝類、イカ類、小型魚類など
捕食者: 不明

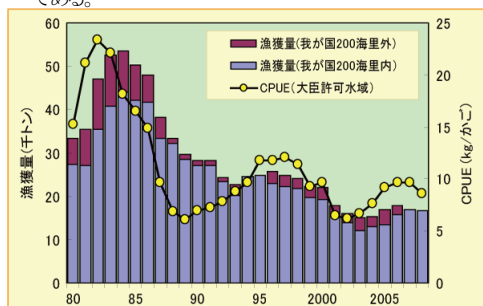


漁業の特徴

日本海ではかご網によって漁獲される。東経134度以東の各県地先における知事許可漁業と、東経134度以西及び大和堆・新隠岐堆などの沖合漁場における大臣許可漁業の2つの異なる許可形態で構成されている。2005年以降、大臣許可漁業の漁場がより西方へ移動している。甲幅90mm以下の雄ガニ、ならびにすべての雌ガニは禁漁となっている。

漁獲の動向

漁獲努力量の増大と沖合域への漁場の拡大によって、日本海本州沿岸における漁獲量は1983～1984年には52千～53千トンまで増加したが、以後は急速に減少した。1992年以降は22千～26千トンでほぼ安定していたが、1999年以降は再び減少に転じ、2003年が15千トンで最低となり、その後はやや増加した。2008年の暫定漁獲量は17千トンである。



資源評価法

漁獲量及び漁場別CPUEの経年変化を基礎とし、漁場の利用パターン、各漁場における漁獲物甲幅組成を考慮して判断した。

資源状態

大臣許可水域では1997年以降CPUEが減少傾向にあったが、2002年の6.2kg/かごが最低で、その後は改善した。2008年は前年よりも低下して8.6kg/かごであったものの、2009年前半は10.0kg/かごで回復している。知事許可水域のCPUEは県によって異なるが、概ね横ばいまたは増加傾向で、2008年の値は12.3kg/かごである。2008年の系群全体の値は9.6kg/かごで、前年とほぼ同じであった。漁獲物中には大臣許可水域で12%、知事許可水域で5%(いずれも重量比)の小型・未成体個体を含んでいる。系群全体の資源状態としては依然として過去最低の水準にあるものの、動向は増加と判断される。



管理方策

資源状態は増加傾向と判断されたものの、資源水準は依然として低位で、漁獲水準を引き下げる必要がある。漁獲物には小型および未成体個体を含んでいるため、これらに相当する分を減じることによって今後の加入量の増加見込めると判断した。大臣許可水域は個別割当制が導入後の2007、2008年の平均漁獲量から12%を減じた値、知事許可水域は2005～2008年の平均漁獲量から5%を減じた値を求め、これらを合算してABCLimitとした。これに安全率0.8を乗じてABCTargetとした。

	2010年漁獲量	管理基準	F値	漁獲割合
ABCLimit	15,000トン	0.88大臣許可水域Cave2-yr 0.95知事許可水域Cave3-yr	—	—

ABCtarget	12,000トン	0.8・0.88大臣許可水域Cave2-yr 0.8・0.95知事許可水域Cave3-yr	—	—
-----------	----------	--	---	---

資源評価のまとめ

- 我が国200海里内における漁獲量は1994年以降減少し、2003年が最低値となった後はやや増加した
- CPUEの変動傾向、CPUEと有効漁獲面積から試算した資源量の変動傾向から、低水準・増加傾向であると判断される
- 漁獲物は依然として小型・未成体個体を含むため、これらの重量比に相当する漁獲量を減じてABCを算出した

管理方策のまとめ

- 加入量を増加させるため、未成体個体等の漁獲をなくす
 - 日本海の深海底に広く分布する種のため、沿岸各国と共同で資源の管理にあたる必要がある
 - 混獲による漁獲対象外の個体の減耗を防ぐため、小型個体の多い水域での操業を避けることが望ましい
- 平成21年10月26日更新

資源評価は毎年更新されます。